



2022年7月より、サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の非常勤委員に就任致しました宮坂充と申します。所属元の株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（MUFG）及び株式会社三菱 UFJ 銀行においては、経営企画部サステナビリティ企画室室長として、グループのサステナビリティに関する企画・推進や、サステナビリティ関連の情報開示に携わっています。また、過去には融資業務を通じてお客さまの財務報告書等を元に信用分析、融資判断を行うことにも携わってきました。

これまでサステナビリティ情報開示に関しては、アルファベットスूपと揶揄されるように、欧米中心にさまざまな団体が策定した基準が乱立する状況にあり、開示を行う企業や投資家にとって混乱の要因とされてきました。それらの統一を一つの目的として国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が設立され、日本における開示基準の開発や、国際的な開示基準の開発への貢献を目的としてSSBJが設立されたことには、非財務情報の開示に携わる者として大いに期待したいと思うとともに、その委員に選んでいただき身の引き締まる思いです。

昨今、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言が気候関連開示のグローバルスタンダードとなりつつあり、ステークホルダーから求められる情報開示は質、量ともにますます拡充が求められる状況にあります。現在、意見募集が行われているISSBの公開草案においても、気候関連開示基準が示されていますが、例えば私たち金融機関が開示すべき温室効果ガス排出量のスコープ3では、投融資を通じた排出量が求められます。これは私たち単独で開示できるものではなく、お客さまである投融資先の開示情報を積み上げて漸く形にできるものです。したがって、サステナビリティ開示基準は、金融機関にとってのみならず、広く産業界においても使いやすく、過大な負担とならないもので、かつ投資家等の利用者の評価が得られるものであって欲しいと強く願います。

政府の「新しい資本主義」が目指す成長と分配の好循環を生み出すために、非財務情報の開示強化は重要な要素であり、気候変動に加え、生物多様性や人的資本など、さまざまなサステナビリティ課題の情報開示の拡充は、世界の投資を呼び込む上で不可欠とされています。SSBJにはこうした使命感を持って臨みたいと思います。

## 委員長及び委員の紹介

金融機関は、自らのサステナビリティ関連財務情報開示を行う作成者の立場に加え、債権者や投資家といった利用者の立場も併せ持っていますので、私自身、様々な立場・視点から、サステナビリティ開示基準の開発・確立に貢献したいと思います。一方、私以外の委員の方々は前身組織である SSBJ 設立準備委員会のメンバーでもありますので、他の委員の皆さまがこれまで積み上げた議論などご指導を賜りつつ、微力ながら貢献できるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。